

小牧市における公共交通の課題整理

1) 社会情勢から見る公共交通の課題

課題①人口減少や高齢化の進展

- 本市の人口は、平成 27 年をピークに減少傾向が続いており、特に年少人口(14 歳以下)、生産年齢人口(15 歳～64 歳)は 20 年以上前から減少傾向にあります。これらの世代の減少は公共交通の経営面を支える通学・通勤利用の定期利用の減少につながります。
- 高齢者人口割合は年々増加していくと推測されることから、高齢者を中心に自家用車に依存しなくても日常生活を維持できる、新たな交通サービスの導入検討を行う必要があります。

課題②ライフスタイル等の変化による公共交通利用の変化

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の令和元年度までの各交通機関の年間利用者数は、名鉄小牧線では微増の傾向、民間路線バスでは概ね横ばいの傾向、タクシーでは微減の傾向を示してきましたが、感染拡大が進んだ令和 2 年度はいずれも大きく減少しました。
- その後、産業、経済、観光需要が回復しつつある中で、各交通機関の利用者数も回復基調に転じているものの、コロナ禍を受けて変化したライフスタイルや就業・就学環境等の中でコロナ禍前の利用水準にまで回復していない状況があります。

課題③地域公共交通を担う運転手の担い手不足

- トラック、バス、タクシー等の自動車運転者について、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(厚生労働省)が改正され、令和 6 年 4 月に適用されることから、これまで以上に運転手の拘束時間の削減や、休息時間の確保等が求められるようになります。これに伴って発生する様々な影響が「2024 年問題」と呼ばれており、物流の停滞やバスの減便等が懸念されています。
- 愛知県では、全国値と比較して自動車運転の職業における有効求人倍率が高く運転手不足が顕著となっています。
- 運転手不足を解消するため、A I デマンド交通や自動運転等を活用した人材不足を補うための新たな交通サービスの導入を検討する必要があります。

課題④環境に配慮した移動の促進

- 地球温暖化対策として、次世代自動車の普及など、移動の脱炭素化を進める必要があります。

2) 現計画（網形成計画）の評価からの課題

課題① 活力あるまちづくりを支える交通体系の構築

- 地域拠点の交通結節点における鉄道・バスの日平均乗車人数の内、桃花台センター地区は基準値を下回っていることから、乗継ぎをより円滑にするためのバス停の集約化などの対策が必要です。
- 都市計画マスタープランに示されたとおり、中心拠点や地域拠点、名鉄小牧線沿線を中心に居住や都市機能が集積した集約型市街地を誘導するなど、コンパクトなまちづくりと、それをつなぐ持続可能な交通ネットワークの構築が必要です。

課題② 持続可能な交通体系の構築

- 公共交通を月に1回以上の利用をする人の割合が基準値を下回っていることから、公共交通の利用を促進するための対策が必要です。
- 公共交通を通勤または通学目的で利用する人の割合が基準値を下回っていることから、通勤や通学者が公共交通を利用するための方策の検討が必要です。
- 市の補助路線である間内岩倉線の収支率は、目標値を下回っており、収支率を改善するための対策が必要です。
- 桃花台インフラ撤去工事に支障となる既存の自転車等駐車場については、バスや鉄道利用者の利便性が低下しないように配慮した再整備を推進する必要があります。

課題③ 地域を支える交通体系の構築

- 国、県の補助対象路線であった名鉄バス桃山線が利用者数の減少により令和3年10月に廃線となったことから、公共交通徒歩圏域人口カバー率が低下しており、その対策が必要です。
- 高齢者や障がい者等の公共交通に対する不満足度は改善されていますが、今後も、高齢者や障がい者等を含む全ての人々が利用しやすい交通体系の構築を図る必要があります。

課題④ 交流を促す交通体系の構築

- 鉄道の乗り継ぎの不満足度が高くなっているほか、こまき巡回バスの乗り継ぎの不満足度も高くなっています。
- 今後、リニア中央新幹線の開業に向けて名古屋駅を中心とした地域の飛躍的な発展が見込まれる中、名古屋駅への広域ネットワークを形成し、周辺地域の発展を図る上で、名鉄小牧線から名古屋駅へのアクセス性の向上に取り組むことが必要です。
- 市内の交通拠点から観光スポットまでの交通手段の案内の充実等により、便利で快適に観光を楽しむ環境を確保する必要があります。
- 隣接市町等との連携や関係者との調整により、小牧市内と隣接市町間の移動ニーズへの対応を図るなど周辺都市と連携した交通体系の構築を行うとともに、地域版 Maas の構築を検討するなど観光施設との連携により、観光需要にも対応した交通サービスの提供を行う必要があります。

3) 市民・利用者等のニーズ調査からの課題

課題① 広域移動ニーズの高まり

- 小牧中心部は名鉄小牧線、西部は名鉄犬山線、東部はJR中央線を多く利用しているため、小牧駅、岩倉駅、JR春日井駅など、地域ごとの移動需要を意識した鉄道駅へアクセスにつながる公共交通の確保が必要です。
- 「近隣市への移動」、「名古屋市への移動」、「市内の移動」の順に不満足度が高い傾向にあり、市民の日常生活においては、市内での移動の充実を図ることはもとより、通勤・通学を中心とした名古屋市等の市町村を跨ぐ地域間を移動する公共交通の確保が必要です。

課題② 多様な交通ニーズと公共交通事業者を取り巻く現状

- 鉄道については、市民アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低いものは「乗り継ぎの利便性」、「自宅から駅、駅から目的地の移動」、「小牧市内の駅周辺の魅力」となっています。また、公共交通地域懇談会では、「運賃が高い」、「名鉄小牧線の全線複線化・高架化」、「上飯田連絡線の名古屋市営地下鉄名城線・東山線・桜通線への延伸」等の意見がありました。
- こまくるについては、利用者アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低いものは、「運行本数」、「定時性」となっており、市民アンケートでは「運行本数」「運行経路」「乗り継ぎの利便性」となっています。また、公共交通地域懇談会では、「小牧市民病院に直接行けるようにしてほしい」、「多くの人が座れるようにしてほしい」、「隣町のデパートに買い物に行けるようにしてほしい」等の意見がありました。
- 路線バスについては、利用者アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低いものは「運行本数」、「定時性」となっており、市民アンケートでは「運行本数」「自宅やからバス停、バス停から目的地の移動」、「運賃」となっています。また、公共交通地域懇談会では、「運賃が高い」、「名鉄バス桃山線が廃線となり不便になった」等の意見がありました。
- 高速バスについては、利用者アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低いものは「運行本数」、「運行時間帯」となっており、市民アンケートでは「自宅からバス停、バス停から目的地の移動」、「運行本数」、「運賃」となっています。
- タクシーについては、市民アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低いものは「運賃」、「小牧市内の駅でのつかまりやすさ」となっています。また、公共交通地域懇談会では「ライドシェアやAIによる配車の導入」、「タクシー券配布」等についての意見がありました。
- 公共交通へのニーズは様々ですが、人件費・燃料費の高騰や運転手不足など、公共交通を取り巻く状況は厳しいことから、利用状況に応じて、経済性や事業性を考慮し、適切な交通サービスを提供していく必要があります。